

## 様式第2号

## 平成25年度 独創的研究助成費実績報告書

平成26年 4月 4日

申請者	学科名	デザイン学部	職名	助手	氏名	石王美 印
調査研究課題	高齢者の行動分析におけるコミュニケーションコンテンツ研究					
交付決定額	200,000 (円)					
調査研究組織	氏名		所属・職		専門分野	役割分担
	代表	石王美	造形デザイン学科・助手		コンテンツ・インタラクシ ョンデザイン	研究の責任者
	分 担 者	梁元碩  潘榮煥	芝浦工業大学デザイン 工学部 デザイン工学 科・准教授  韓国国民大学TEDデザ イン大学院・インタラ クションデザイン・助 教授		感性科学、イン タフェース デザイン  インタラクシ ョンデザ イン、ユーザ ー中心デザイン	研究調査と実験の協力  システム設計の協力

調査研究実績の概要

本研究は大きく日本と韓国の高齢者コミュニケーションの状況を把握・分析し、グループで定義し、各グループについて両国の現態を明らかにすることと研究の結果に基づいたコミュニケーションコンテンツを提案をする二つで構成されている。そのため、以下のプロセスを通して調査・抽出・検討・整理を行うことを目的にしている。

平成25年は高齢者を表記している様々な分野の研究文献調査を行って、社会学で主に使われている分類法で高齢者を分け、コンテキストインクァリというセオリーで韓国の高齢者6人を対象に調査を実施した。コンテキストインクァリという技法はユーザーイクスピアリانس分野でユーザー調査を行う時に用いる技法で、調査自体をユーザーの生活空間で行い、ユーザーの行動を観察して記録する。観察の際、解釈出来ない行動や仕草については観察が終わって質問をする。この手法は一般的なインタビューより時間と人件費はかかるが、言葉で表現出来ない全般的な環境を把握する時に有用である。

高齢者は年齢と健康によって様々な差があり、インタビューだけでコミュニケーションに関する環境を調べることは難しいと判断した。

高齢者を年齢と健康を基準に3グループに分け、各グループ別に2人の被験者を決め、一週間一緒に生活しながら彼らのコミュニケーションに対する全てを調べた。

観察チェックリスト

2グループ(75~84歳)\_平日

		日時																							
Time		6:00	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00	19:00	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00					
Place		家				協会				岩盤浴				家				家(寝る)							
行動		1)6:00 起きる 2)折り 3)ストレッチ10回 4)歯ご歯 6)TV-天気予報、ニュース- 7)インシュリン注射(セルフ) 8)化粧する 9)風呂に行く				1)折り 2)12:00 昼ご飯 2)老人大学 3)団体の知り合いと話				1)岩盤浴 2)お話し				1)晩ご飯 2)TV ドラマ、ニュース 3)お歩き 4)家族とお話し 4)本読む											
人		息子、嫁				協会の知り合い				お友達				息子、嫁											
使用ツール		1)新薬 (ルーベ) 2)TV 3)化粧品 4)インシュリン注射				1)バスか地下鉄				1)携帯電話(通話機能)				1)TVリモコン 2)ラジオ											

インタビュー

基本的な環境についてはインタビューを実施した。

人生の目的、お願い点、特に苦しいこと

調査を通じて得たデータはユーザーイクスピアリانس分野修士・博士学生6人でまとめた。解釈の時、出来るだけ客観性を持って判断することが必要である。

調査の結果は日本感性工学会2014春大会で発表した。

成果資料目録

日本感性工学会2014(北海道大学)口頭発表(3月23日)  
「高齢者向けのコミュニケーションサービスデザイン研究  
Step1:コンテキストインクァイアリ技法を用いたユーザー調査」